

1. 公立の小学校・中学校での被害状況（岩手県・宮城県）

◆東北3県の公立小・中・高校の犠牲者数(死亡、行方不明)

	小学生	中学生	高校生	特別支援	計
岩手県	21名	15名	52名	3名	91
宮城県	183名	75名	87名	5名	350
福島県	24名	15名	25名	1名	65
計	228名	105名	164名	9名	506

【注】各県教育委員会調べ(H23年5月現在)。福島県の行方不明者数は非公表。

◆学校管理下で多くの犠牲者を出した学校

県	地域	学校名	標高	海岸まで	被災場所	犠牲者数
宮城県	石巻市	大川小学校	1m	約4km	避難途中	児童74名、教師10名

【注】標高は地理院地図(電子国土Web)、海岸までの距離はGoogle Earthによる。

◆多くの公立の小・中学校が津波被害を受け校舎が使用不能となった。また、津波被害を受けたことが直接の原因になり廃校となった学校も多い。

	使用不能の学校		廃校の小学校	廃校の中学校	計
岩手県	20校	岩手県	6校	3校	9校
宮城県	31校	宮城県	16校	6校	22校
計	51校	計	22校	9校	31校

【注】廃校となる学校は参考資料の『統廃合状況一覧』を参照のこと。

【考察】

- 1) 大川小学校のケースは東日本大震災において唯一学校管理下でおきた悲劇。遺族による訴訟中ではあるが、子供達の命を守るためになすべきことを学校関係者は再確認すべきである。
- 2) 東北3県の公立学校では、約500名の小中高校生が犠牲となった。今回の大震災では在校中の学校が多く、早めの避難や屋上等へ避難することで助かったケースが多いが、すでに帰宅または下校中に被害にあった児童・生徒は多い。自宅の場所が悲劇を生んだことになる。
- 3) 津波が来たときに逃げることを訓練している学校は多いが、全校生徒が全員避難できる場所、避難方法、避難経路、避難予想時間、そこで孤立したときの対応など全てを計画しても実際に行うことが出来るのか何の保証もない。「奇跡頼み」になっていないか危惧される。
- 4) 津波被害に遭うことで多くの学校は廃校に追い込まれている。東日本大震災では岩手・宮城両県の公立小学校22校と中学校9校が廃校となった。「母校」が消え、「校歌」を受け継ぐものがいなくなり、その地域の中心となる象徴が消える。その地域の存続・発展を望むならば、津波被災しない場所へ学校を建てると同時に津波被災しない場所に住むことを目指すべきである。

【参考資料】

東日本大震災に関わる公立小・中学校の統廃合状況一覧

【岩手県】	関連学校	統合学校
大槌町	大槌小、安渡小、赤浜小、大槌北小	大槌小
大船渡市	越喜来小、甫嶺小、崎浜小	越喜来小
陸前高田市	気仙小、長部小	気仙小
	広田中、小友中、米崎中	高田東中(新設)

【宮城県】	関連学校	統合学校
気仙沼市	気仙沼小、南気仙沼小	気仙沼小
	鹿折小、浦島小	鹿折小
	落合小	(廃校)
南三陸町	志津川中、戸倉中	志津川中
石巻市	大原小、谷川小	大原小
	雄勝小、船越小	雄勝小
	相川小、吉浜小、橋浦小	北上小(新設)
	湊第二小	(廃校)
	荻浜小	(廃校)
	河北中、大川中	河北中
女川町	女川第一小、女川第二小、女川第四小	女川小(新設)
	女川第一中、女川第二中	女川中(新設)
東松島市	小野小、浜市小	鳴瀬桜華小(新設)
	鳴瀬第一中、鳴瀬第二中	鳴瀬未来中(新設)
山元町	坂元小、中浜小	坂元小

(出所)

岩手県教育委員会「公立小・中学校の統廃合状況一覧(昭和 36 年以降)」、
宮城県教育委員会「設置・廃止等学校一覧(平成 25 年2月 28 日現在)」より作成